

State of the Art

運動と肺高血圧症

運動時肺高血圧症

—慢性血栓塞栓性肺高血圧症診断の一助として

合田あゆみ 杏林大学医学部循環器内科講師

Key word  運動時肺高血圧症, pre-capillary PH, post-capillary PH, QOL

S u m m a r y

かつて難病であった肺高血圧症(PH)の予後は、治療の進歩により劇的に改善した。そのため、安静時には正常な血行動態である患者に対し、運動時 PH を診断し、早期診断や治療効果判定を検討することが行われるようになった。2017年に欧州呼吸器学会より運動時 PH の定義に関するステートメントが発表され、それによる臨床への検証がなされてきた。

今後は、早期発見・介入によるさらなる予後と QOL の改善、治療後に残存する運動耐容能低下への介入が重要となっている。人は、日常生活において安静にしているわけではなく、常に動的である。安静時にはわかり得ない運動時の評価を行うことで、さらなる患者アウトカムの改善に繋がると期待したい。